

高館高同窓会報

特集

10年目を迎える 新同窓会総会

新しい形になった同窓会総会は今年10周年の節目を迎える。「行ってみよう、行ってよかった同窓会」をめざして参加者の目線を取り組んだ同窓会改革、その改革の原点を遡いつつ、先ごろ実施したOBへのアンケート調査から浮かび上がってきたそれぞれの思いに焦点をあてOBにとって「同窓会とは何か」に迫ってみた。



これまでの同窓会総会は、セレブニーが長すぎ懇親会が短い、出席者は50人前後で年長者が多く固定化傾向

改革の原点：「同窓生はみな平等」
関係者の努力にもかかわらず

出席者はシリ貧状態で名門館林高校の同窓会総会としては質・量ともに盛り上がりにかけていた。そんな中、就任間もない岩瀬新会長を中心に新役員も加わり改革の機運が一気に高まった。大勢のOBの集う新しい同窓会総会に生まれ変われないか熱心な議論が交わされた。県下高校の視察も行い、高崎高校同窓会をモデルに改革作業は二気に加速した。

挨拶は会長と校長だけとする
・来賓席はつくらない
・代表幹事が総会運営を仕切る
・学年ごとの総会幹事によるチケット販売などが次々に改革案に盛り込まれた。その改革の底流にあるものは「同窓生はみな平等」「総会のスリム化」「同級生は同席で」の考え方であり、これこそが正に新同窓会改革の原点といえよう。その精神は現在にも受け継がれている。その結果、総会出席者は第二回以来、常に300人を優に超える大盛況。さらに初代代表幹事のアイデアによるウェルカムドリンクの提供、吹奏楽部の校歌演奏など、もてなしの心も添えられた。

「総会スリム化」「同級生は同席」は好評
では改革後の同窓会をOBはどの様に感じているのだろうか
OBのアンケートより

今まで9回の同窓会の感想は
・懐かしかった、楽しかった、盛会で感激
・以前より若い人が参加し人数で喜ばしい、パワーを感じる
・挨拶抜きは良い
・OB挨拶や旧友に会えて嬉しかった
・先輩、後輩との再会には不

可欠な集い
・母校の様子を知る機会であり次回も出たい
・しばらく今のままで継続してほしい
・まだ若手の参加が少ない
・同期は自分だけが遠慮だった
・会費5000円は高い
・3000円にできないか
――多くのOBから楽しかったとの回答をいただいた。総会のスリム化同級生は同席でゆつくりと話せるなどが好評だったようだ。少数意見ではあるが、いつも同じで少々マンネリ化が見られるとの意見もある。現在の盛況に甘んじることなく、将来への真摯な声にも配慮を忘れてはならない。

人生のリフレッシュの場

あなたにとって同窓会とは何ですか。
・青春をよみがえらせたい
・大勢の人が元気をもらおう
・明日の糧・OBに会える楽しみ、お互いの若さ健康度を確認したい
・あい活気にする年一度の楽しみ
・館高卒業生としての一体感
・卒業生の母校愛の集団
・母校は地域の力を強める



――青春時代にプレイバックできる上、旧友との語らい、先輩後輩との交流、そして母校との一体感の中から、自分自身も元気になる元気の源としてとらえている様子が見えられた。

今後に期待する点・要望等

・今まで通りでよい、継続してほしい
・大事・記念講演の開催など何かイベントを追加してほしいか
・10周年を記念して同窓会名簿を作成してほしい
・酒宴ではなく講演とか最後の健康、楽しみ等の発表会的なものを行ってほしい
・参加者の少ない年度がある、幹事の人員に改善の余地あり
・若い人の参加を期待している

――今のままで継続してほしいとの意見は多いものの、要望は社会環境の変化や年齢によって多様化している。今後の運営方針を検討する上で示唆に富む、貴重な意見を数多くいただいたことがうれしかったです。

「館高卒業生として誇りをもてる会」 ……岩瀬会長談

総会やアンケートを通していただいたOBの皆さんからのご意見に耳を傾けながら、良い点はそのまま続け改めるべきは改めるといった姿勢で進めたい。館高卒業生として誇りをもてる、そしていつまでも楽しい集いが続けられるよう同窓会のやるべきことをきっちり果たして行きたい。近々母校創立90周年を迎えます。今後とも諸兄の支援、ご協力をよろしくお願ひします。

母校とともに力強い歩み

同窓生の皆様にはお元気で、それぞれのお立場でご活躍のことと存じます。同窓会も皆様方のあたたかいご支援とご協力をいただき母校と共に充実発展をいたしておることに対し心から感謝とお礼を申し上げます。



同窓会長 岩瀬孝市

従と共に情熱をもって学業と部活動に励み立派な成果をあげることが出来たのも、地域社会や関係者のご支援の賜りであり、心から感謝を申し上げますと共にこれから励み強く思い心から期待をいたしております。

母校館林高校も三年後に創立九十周年を迎えることになり同窓生としても限りなく喜びであります。今日まで館林高校の発展のためにご協力下された歴代の校長先生を始め先生方が、生

私は昨年十一月に埼玉会館で開催された葉師寺のまほろば塾に出席した時の葉師寺安田賢主様の話が心に残っておりま

生きる糧にしているとのこと。その言葉とは「心が変われば行動が変わる。行動が変われば習慣が変わる。習慣が変われば人格が変わる。人格が変われば運命が変わる」と言う言葉です。今の日本においても是非政治家を始め指導者国民も考え直す必要があると思えます。

OBが学校へ
職業別進路講演会
五月二十三日(土)五時開始に、本校の恒例行事であるOBによる職業別進路講演会が開催された。

あいさつ

いさかい

本年度から校長になりました。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、四月一日に就任いたしましたときの感激を鮮明に覚えています。正門前には美しく咲き誇る桜並木がありました。



校長 猪熊 仁

るのは3年ぶりになります。教職に就くものとしては、やはり、生徒の声が聞こえる学校に勤務することが一番であることあらためて感じたいです。

さて1学期の間にたくさんの行事がございました。特に50強歩大会では、伝統ある館林高校にふさわしく、生徒諸君

は真剣にそして勇気を持って取り組んでおりました。

また、生徒諸君は、朝早くから、夕方まで実によく勉強と部活動等に励んでおられます。この姿を見るにつけ、館林高校の伝統を感じております。

講演して下さった館高OBの方々
講演会には、本校OBの皆さんが参加され、それぞれの職業について話され、生徒は真剣に聞き入っていました。



講演して下さった館高OBの方々

私の前任地は、伊勢崎市にあります。群馬県総合教育センターでした。そこでは教職員の研究及び研究の企画や運営を行っておりました。学校に勤務す

定時刻では、創立六十周年記念講演会を、本校の同窓生でいらっしゃる館林市長室井田好勇氏を講師にお迎えして開催しました。生徒諸君は郷土に対する愛着をより深めることができました。

最後になりますが、同窓会のみならずの発展と、同窓生の皆様のご健勝を祈念申し上げます。あいさつとさせていただきます。

支部長
大隈 清道(二十三年卒)
板倉 鈴木 攻(三十七年卒)
明和 小牟 進(三十一年卒)
千代田 武井 肇(三十年卒)
桐生町 新井 耕一(二十九年卒)
館奥会 河内 初光(三十年卒)
太田 大杉 幸一(三十八年卒)
定利 小幡洋次郎(三十六年卒)

監事
大隈 清道(二十三年卒)
板倉 鈴木 攻(三十七年卒)
明和 小牟 進(三十一年卒)
千代田 武井 肇(三十年卒)
桐生町 新井 耕一(二十九年卒)
館奥会 河内 初光(三十年卒)
太田 大杉 幸一(三十八年卒)
定利 小幡洋次郎(三十六年卒)

幹事
大隈 清道(二十三年卒)
板倉 鈴木 攻(三十七年卒)
明和 小牟 進(三十一年卒)
千代田 武井 肇(三十年卒)
桐生町 新井 耕一(二十九年卒)
館奥会 河内 初光(三十年卒)
太田 大杉 幸一(三十八年卒)
定利 小幡洋次郎(三十六年卒)

顧問
矢口 昇(二十五年卒)
谷津 義男(二十八卒)
松本 結尚(三十八年卒)
安藤 一雄(四十一年卒)
猪熊 仁(母校校長)
岩瀬 孝市(二十五年卒)
小嶋 泰男(二十六年卒)
宇治川 博司(二十七年卒)
山崎 浩志(二十八年卒)
山崎 博(二十九年卒)
山崎 隆(三十一年卒)
大塚 幸雄(三十五年卒)
河本 栄一(三十六年卒)
小嶋 洋次郎(三十六年卒)
前山 秀樹(三十七年卒)
小林 廣吉(三十七年卒)
大隈 允雄(三十八年卒)
山岸 勝美(三十八年卒)
遠藤 和昭(四十二年卒)
大谷 昭二(母校副校長)
齊藤 敏明(母校副校長)
野村 博久(四十三年卒)
町田 収司(母校教諭)
藤倉 和夫(四十四年卒)
中津 康夫(母校事務長)
尾形 哲男(二十年卒)
橋本 清(四十一年卒)
萬部 己行(四十七年卒)

顧問
矢口 昇(二十五年卒)
谷津 義男(二十八卒)
松本 結尚(三十八年卒)
安藤 一雄(四十一年卒)
猪熊 仁(母校校長)
岩瀬 孝市(二十五年卒)
小嶋 泰男(二十六年卒)
宇治川 博司(二十七年卒)
山崎 浩志(二十八年卒)
山崎 博(二十九年卒)
山崎 隆(三十一年卒)
大塚 幸雄(三十五年卒)
河本 栄一(三十六年卒)
小嶋 洋次郎(三十六年卒)
前山 秀樹(三十七年卒)
小林 廣吉(三十七年卒)
大隈 允雄(三十八年卒)
山岸 勝美(三十八年卒)
遠藤 和昭(四十二年卒)
大谷 昭二(母校副校長)
齊藤 敏明(母校副校長)
野村 博久(四十三年卒)
町田 収司(母校教諭)
藤倉 和夫(四十四年卒)
中津 康夫(母校事務長)
尾形 哲男(二十年卒)
橋本 清(四十一年卒)
萬部 己行(四十七年卒)

顧問
矢口 昇(二十五年卒)
谷津 義男(二十八卒)
松本 結尚(三十八年卒)
安藤 一雄(四十一年卒)
猪熊 仁(母校校長)
岩瀬 孝市(二十五年卒)
小嶋 泰男(二十六年卒)
宇治川 博司(二十七年卒)
山崎 浩志(二十八年卒)
山崎 博(二十九年卒)
山崎 隆(三十一年卒)
大塚 幸雄(三十五年卒)
河本 栄一(三十六年卒)
小嶋 洋次郎(三十六年卒)
前山 秀樹(三十七年卒)
小林 廣吉(三十七年卒)
大隈 允雄(三十八年卒)
山岸 勝美(三十八年卒)
遠藤 和昭(四十二年卒)
大谷 昭二(母校副校長)
齊藤 敏明(母校副校長)
野村 博久(四十三年卒)
町田 収司(母校教諭)
藤倉 和夫(四十四年卒)
中津 康夫(母校事務長)
尾形 哲男(二十年卒)
橋本 清(四十一年卒)
萬部 己行(四十七年卒)

平成二〇年
同窓会本部役員

学年同窓会

激動の時代が育んだ絆 続く文集発行 26年卒同窓会

昭和五八年から従来の各クラスごとに開催していた同級会を、学年同窓会開催に一本化した。以来、平成七年から毎年開かれ、今年一七回は六月七日に開催された。館林高校で六十年(旧中三年)間、昭和二十年四月から二六年三月までにわたり、青春期の多感なときに在学した。世相は、激動の昭和を象徴する世界第二次大戦終焉から、占領と再建への独立期であった。現教育制度六・三・三制の導入への転換で、歴史的変革期を背景とした急激の、この六年間の学窓生活は、人生の中で貴重な交友関係を育んでくれた。



館林高校第三回卒業同窓会 2008年6月7日 ジョイハウスにて

同窓会は会長小嶋泰男、事務局小倉礼一、飯塚博久、加えて毎回の年度幹事を順番に二、三名いれての体制が、近況把握と連絡の緊密さが図られて盛況に継続している。外に、飯塚博久君を中心に有志による同級友好会があり、夫婦同伴での楽しい国内外旅行が毎年実施されている。又、同東京同窓会は事務局小林淳一君が在京者を纏めているのが心強い限りである。平成十一年六月会場は中野サンプラザで東京同窓会、出席四九人、この交流の歴史られた「葉」は在京諸氏の文集

を冊子にしたものである。これが契機となり一気呵成に同窓みなを呼ぶところとなり、記念文集「老春に咲く花」が生ずることとなる。自分史としての忠実な執筆溢れる投稿など感動させられた。同年九月に発行(A版一六五頁)した。続「老春に咲く花」を平成十七年十二月発行(A版四二四頁)した。「古希を迎え、再春を迎える同窓会を続けるなかで、館高時代の一期一会をもとに、人生の今を書き残そう」と、最後とも書える記念文集「自分史」、併せて、人生の「アンケート設問に対する答え」の集計の考察は一読に値する傑作だ。

(26年卒 浦野和夫 記)

古希に続き、今年ば年男の同窓会 30年卒同窓会



卒業後五十年(古希)の同窓会を二年前に開催し、続いて今回は、人生六回目の年男同窓会を四月に、つづじが四パークインで開催した(一泊二日)。今回の開催は、前回の同窓会時に決まっていたものであり幹事は石川・恩田・前原・吉田・河内の五名で担当した。私達、39年商業科卒業生は、平成18年5月遠征記念の節目で五浦海岸へ一泊旅行を行い旧交を温めた。学生気分に戻った楽しい強い印象が残り、2人の同級生から、今年(平成19年)も同級生のバスで、同級生2人の運転で、紅葉見える所に行こうから始まった。早速、地元幹事他9名が集まり、役割り分担等細部の打合わせを行い、恩師の斉藤先生(80歳)に参加していただき、11月に一泊旅行を盛大に挙行することが出来た。(宮城栗秋温泉へ総勢23名)バス車中では、直ぐに打ち解け思い出話や順に自己紹介、近況報告となり同報告等を聞くにつれ、これまでの人生経験等、皆さん、おおいに傾いていた。斉藤先生は高齢にもかかわらず、また、骨折し完治しないうちに参加してくれた同級生、ニッカウイスキー仙台工場見学では、先ほどの同級生を車椅子で友人が押す、その姿が微笑ましか

なあり、あの頃はと語り興合に「思い出のアルバム」に花が咲く。次も又、二年後に開催と決まった。幹事は、吉田善市君を中心に県外在住の皆さんが担当してくれる。幹事さんのアンケート調査の結果では、一泊二日で鬼怒川方面に決まりそうである。次回もまた皆で元気に楽しくやりたいものである。お世話になった母校・恩師に感謝し、全員のご健康と長寿を心から祈って報告に代えます。

(30年卒 河内初光 記)

遠征記念同窓会の翌年も 恩師を迎えて一泊旅行 39年卒同窓会



39年卒 館林高等学校同窓会 一行様

つた。友情とはこうあるべき、友人に敬意を表したい。2日目に松島へ、松島湾では斉藤先生に引率され海内一周の乗船やカモメとの触れ合い等、高校生で味わった経験を44年振りに再現、心に染みる。太平洋の大海洋を眺めて思うに、一人の少年が学窓から、世に飛び出した社会の荒波をもつとせす、現在あるのは、たくましく生き抜いてきた証だ。そして悠々自適の生活に入っている友等、それぞれが社年から老年へとたどり着き、現在に至っている我々同級生。

(39年卒 増尾良一 記)

人生80年、これからも皆、館林高校あつての同級生、健康に留意し再会を楽しみに、職場で地域で一層頑張っていく。おわりに、続けて旅行に参加してくれた「同級生と青春をもう一度暮らしたい先生」に乾杯、感謝を申し上げたい。

支部活動

邑楽町支部

会報・ゴルフに加え 初のグラウンド ゴルフ会

邑楽町支部役員 新井耕一



初のグラウンドゴルフ

当支部の総会が去る五月二十四日会場仲家にて四六名が出席、ご来賓を添えて開催されました。懇親会では若い会員の参加もあり大いに盛り上がりしました。

また、今年役員改選があり、大先輩からバトンを渡されたわけですが、この会の発起人でもある四名の先輩が選任となり寂しい気が致します。旧役員の皆様には改めて感謝申し上げます。

さて現在会員は二百九十六名、昨年は親睦ゴルフコンペを二回(計四十五名)参加、各関係行事への参加、会報誌の作成等々の活動でしたが、新たにグラウンドゴルフ会第一回を開催したところ十七名の参加があり大変好評でしたので、会員への参加呼びかけを更に行い次回を期待したいと思っております。

東京同窓会

館女東京同窓会と 初の納涼会

会長 大隈清道

当会の最大の課題は、かねて久しく指摘されながら未だに解決を見えない「会の拡充対策」であると思えます。今期、役員改選の結果、その平均年齢は低下しましたが、それだけでは解決には程遠い。若い会員の増加を見ずしてこの課題の解決はあり得ないところでは。

次いで深刻な会の課題は25周年記念事業で悪化した財務の建直しであります。この課題も単年度で解決できるような生刷りしないものでないのが実情です。こうした会の優先課題に向けた努力は、何れも外目につき難い地味なものです。新役員一同の実態に鑑み、選手な活動よりも先の伸展に向けたインナーポテンシャルズの蓄積が肝要との理解に基づき、地道な努力を続けていきます。

この他、鈴木名譽会長の「金持ちより人持ちに」という理念と努力を継承し、県下の高校(前高、高々、渋谷等)の首脳陣の同窓会や業人会連合会など外部機関との交流を深めて行く努力を続けていきます。

とりわけ昨年度再編設立された館林女子高東京同窓会とは、夏の納涼懇親会を合同で実施しようという企画が進められています。

総じて言えば、今期は先の発展に賭けた耐性の時期、特に新しい企画は極力避けております。特に高く昇らんとする尺取虫が、一旦身を折って縮み込む姿に喩えられる状態です。

板倉支部

今年も強歩大会へ 支部参加

支部支部長 鈴木 政



同窓会の少人数で参加して、強歩大会参加

四月十九日に行われた館高50km強歩大会に昨年に続き参加しました。当日は、風がやや強く冷たかったが、二〇名の皆さんが日頃の健康維持を免れ、一区間づつリレー方式で九区間50kmを見事完走、順位は二六四位であった。今回の参加者の中で特筆すべきは、四十六年卒の高瀬高道さん、初参加にも関わらずスタートからゴールまで、歩き切ったその勇気と粘りと敬愛精神を称えたいと思えます。また、三十四年卒の飯島祥佐さんも、五区間を何事もなかったかのように平然と歩き通しました。これぞ校歌に謳われている「男の子の悪気はここに見る」そのものであると、二人の健闘に深く感じ入りました。普段、限られたテリトリーの中に居ながら、お互い同窓生としての認識も薄く疎遠になりがちですが、このような大会参加を通して、一人でも多くの皆さんに支部活動を周知出来たらと思っております。そして会員相互の親睦が、益々深められるよう事務局共々努めていきたいと思っております。

太田支部

親睦と情報交換を大切に

支部支部長 大杉幸一

太田支部は平成四年に設立され、母校卒業生による講演会の開催や、同窓会へ積極的に協力するなど、先輩達の努力により十六年が経過しました。この間、多くの会員との出会いは、貴重な体験を得ることが出来ました。支部総会並びに懇親会は、毎年一月に開催し会員相互の親睦と、知識情報の交換を図っています。年齢差は別とし母校の同窓として仲間意識を持ち、お互いの絆が強められ青春時代を思い浮かべると時を過ごしました。他の活動としては、同窓会本部総会への参加、本部主催ゴルフコンペへの参加と、隣接支部総会に出席させて頂いています。

今後も同窓生同士が濃密感なく参加でき、健康で明るく温情味ある人間関係を築ける活動を課題として考えております。

明和支部

インフルエンザ 予防の講話を聞く

支部支部長 小平 進

館林高校同窓会明和支部総会は平成十九年十二月一日に参加者三十六名にて、盛大に行われました。予定されました講演も滞りなく承認可決され、総会を終えることが出来ました。支部同窓会の皆様のご協力に感謝申し上げます。

総会終了後の懇親会迄の時間が若干残り、ほかからずも明和支部の大先輩である竹越医院院長の竹越功先生の講話をいただくことになりました。十二月の寒い時期でもあり、インフルエンザ予防についてのお話をいただきました。インフルエンザの型や特徴、予防の

ための注意事項等々のお話をわかりやすく説明して頂き大変に参考になりました。結果的に十九年度総会の記念公演といふことにもなりました。

まさに同窓会は親睦の場であることはむろん、同窓生の幸福になるための情報共有の場であることも身をもって体験した総会でした。母校と同窓会は一体で、車でいえば両輪のよつなものです。スピードは遅くともしつかりと着実に進む両輪にしていきたいものです。

千代田支部

若い人たちの 参加を期待

支部支部長 武井章良

千代田支部では年に一度、秋に総会を行っています。それに合わせてゴルフ及びグラウンドゴルフを行い、会員相互の親睦を図っています。昨年(平成十九年度)の例を挙げると、総会は新田家(赤岩)で行い、参加人数は約二十名でした。

ゴルフは上武ゴルフ場で行い、十名の参加者と和氣園のうちに終了しました。また、グラウンドゴルフは東部運動公園で行う予定でしたが、雨天のため中止となりました。お互いに同窓生との絆が十分に深まったと思えます。一般に参加者の高齢化が懸念されていますので、若い人たちのご参加を期待しています。

今年も役員の方々がお誘いの用紙を持って伺いますので一人でも多くの同窓生の皆様のご参加を期待しています。地区役員の方々は次の通りです。

- 一区 高橋 勲 二区 松本 晋三
- 三区 山崎 一夫 四区 川島 清久
- 五区 山崎 晋三 六区 山崎 明彦
- 七区 山崎 晋三 八区 山崎 明彦
- 九区 山崎 晋三 十区 山崎 明彦
- 十一区 山崎 晋三 十二区 山崎 明彦
- 十三区 山崎 晋三 十四区 山崎 明彦
- 十五区 山崎 晋三 十六区 山崎 明彦



場 登 師 恩

名ばかりの恩師だが...

飯塚 博久 先生



旧渡瀬村に生まれ、渡瀬国民学校から館林中学校を受験、約一倍の関門を通過して入学。学制改革で館林高等学校となった当時は戦後の動乱期の真っ只中、減私奉公から自立志主入定誓する日々だった。

館林に採用され、小倉農業高校多々良分校に勤務。館林高校には四年間兼任教師として生物の授業や部活動を担当。高野均先生と農業植物園の造成や低地湿原の植生調査等に

思い出

萩野 次雄 先生



私が館高に赴任した当時は四月二日の着任ではなかった。ところが樋田先生からバスケットボールの練習試合があるので、できたら来ないかとの電話があったので、新婚旅行から帰った翌日の四月三日から学校に出席した。

当時の生徒には板倉井の国語担当、生活指導、バスケの顧問との印象が残っていると思う。その時代のことを「三三三」記してみよう。自動車で通勤していた方少なく私

取り組み、神藤忠夫君や江田勇君、荒井徳夫君、白井佳良君等と汗を流した思い出が浮かぶ。その後、佐波

高、太田高、興教委、西原英高、太田東高、桐生高、伊勢崎市女高、館女高と経験を積み重ね、高学歴化、情報化社会の広がる中で定年退職した。退職後、同級で開催していた同窓会が学年同窓会に発展し、連絡網も整備、慶弔規程も制定、同窓親の宴も毎年開催されているほか、生き

た足跡を残そうと文集「青春に咲く花」シリーズの作成や古希迎いの「イス十白開行」の実施など画巻を目前に館林高校での出会いの集大成を積み上げた無上の熟成感に酔いしれる日々が続く。先輩を追い越す気迫を感じる後輩の育成に万力を尽くしたい思いが高まる。昨今である。

飯塚先生には、昭和45年から37年まで、理科部長としてご指導いただきました。

半世紀前の記憶から

由良 智 先生



聖太子明仁陛下と正田美智子様のご成婚数日前の賑いの中、館高に赴任した。旧制中学校の面影濃い風格ある木造校舎と菅原治久校長を頂点に同級・中堅・少壮の均質のとれた教師陣。伝統校の重みを実感した。授業で相まみえる生徒は、この春の新入生。普通科四学級と商業科二学級の全員を三年間持ち上げた。

懐かしい思い出

江原 教男 先生



館林高校は、最初に赴任した学校で、懐かしい思い出が次山蘇ってきます。現在もそうだと思いますが、当時も、多くの名選手を輩出したスリッパ部をはじめ、部活動が盛んで学校全体が活気に満ちていました。

赴任二年目、一年の担任となり、まずは生徒のことを理解しよう。夏休みには家庭訪問を行いました。暑い中、バイクで遠くは栃木県まで行きましたが、生徒、家庭・地域について理解する上で大変助になりました。

真鍮球、体操、陸上競技、弁論、生物などの各部が県内外で抜群の成績をあげていた。私は軟式野球部と図書部を担当した。

この頃、高校進学者の急増傾向の中で、近在中学卒業生や県内外の他の有名高校へ進学するものが増え、これに危機感を抱いて、館高の名を高めようと全職員が燃えていた。今でも普通になった早朝の課外授業、長期休業中の課外講義、夏休みの学習合宿などを輩出して、真剣に取り組み、生徒達もこれに応えてよくついてきた。卒業時に彼らが遺してくれた素晴らしい進路実績。新校舎建築の善工や新校歌制定とともに、館高の礎が固まった。

いま、当時を知る教員が山秀樹・小林広義吉の高君が、同窓会副会長として学校を支えてくれている。心強い限りである。本校の一層の躍進を期待したい。

江原先生には、昭和45年から37年まで、美術部長としてご指導いただきました。

大泉支部 館泉会報 第十号記念号発行

館泉会会長 河内初光

館泉会も多くの皆様方のお力添えを得て、その後も元気に活動を続けております。昨年度は、お陰様で「館泉会報第十号の記念号」を発行することが出来ました。町制施行五十周年の年でしたので表紙を町全体の航空カラー写真で飾りました（A四版一六頁）。

新年同窓会・合同役員会・納涼会・ゴルフ会、本部同窓会参加・各支部との交流などは従来通り有意義に行っております。太田市との合併が話題になっておりますが実現しても、「館泉会」は残したいと思っております。今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。



O B 登 場

「からっ風魂」に捧げ続³

二十三年卒 鈴木 敏男



予校記片道(里半歩)約10キロの道、熱も当時の通を指す日も、風の日に、特に冬は朝、赤城まで登る中、尻を叩いて風を食いしばり通す。これが今でも胸中と云うか、思い出あり、更に就職中、軍事教練、勤務先にながら、からっ風の中、船通した事が、社会に出る事案を起して、からっ風、貴重な自信と奮闘に耐える精神を植えつけたものを感じている。常に前向きに、今日が駄目なら明日があるこの精神に、感動して居る。

年をとるとは、自覚自覚しない様うと、めくいたのだが、昨年は真暑であつた

空っ風会

二十七年卒 荒井 昭



昭和27年卒の東京周辺在住者を中心に「空っ風会」という名で毎年春に集まっています。

昭和30年代の初め、前橋駅近くでたまに先(木本ゴム商店)にいた木本と偶然出会い、「たまには集まろうか」ということになった。

段原さん、筑比地さん、車崎さん、原田さん、佐藤さん等を幹事とし、段原さんには会の事務一切をお世話になっていた。

卒業後66年が過ぎて、東大で教養を修めコンピュータをやっていた小林さん

三つの大学に勤めて

三十三年卒 曾根 理史



好色本だと云西郷たとかの研究をしていて、よく女子大学に居てくれましたね。といった種々や皮肉をいわれながら、群馬女子大学に勤め始めたのが昭和41年4月、その後十年の期間、昨今流行のセクハラなどと問題に甘んじず、とにかく無事に勤めることができた。

昭和41年5月、筑波大学に転任。東京教育大学の伝統をへ、新構想大学だけに、新たな大入りへの脱皮、とりわけ文学部系の価値観が多く、脱字出の私などは「あんなにも多くなかった。それでも大学には活気があって面白く、平成の年々3月までの十四年間は筑波で楽しんで通

商業科の団結力

三十四年卒 長谷川正博



ニクソスの百人が商業科であった。誰かであつたのクニスだかに割断できないような交際があつた。

いたずらや悪い事や他人もの集団でやつた。修学旅行先では、飲酒が誰かが嘔吐したために出たが、これも二日目以外禁止がなされたが、これも最大出来しんて、馬鹿さがあつた。

同級生の団結力がいろいろな形で強くなつていった学生時代であつた。

問題が起きると職員室や校務室に呼ばれて私が先生に説教されたのも思

振り返って思うこと

三十七年卒 増田 武志



私は昭和三十三年卒です。

この頃は、既に戦後の混乱期であり、食料も不足しており、生活は非常に苦しいものであった。

昭和三十六年、東京女子大学に入学し、商業科に在籍することになった。

この頃の学生生活は、非常に厳格で、学業に専念することが求められていた。

しかし、同級生との交流は、非常に大切で、お互いを支え合っていた。

振り返ると、この頃が人生の大切な経験となつてしまつた。

戦後十一年四月、群馬県立館林高等学校に入学し、商業科三年生として学ぶことになりました。

この頃、戦後十一年四月、群馬県立館林高等学校に入学し、商業科三年生として学ぶことになりました。

この頃、戦後十一年四月、群馬県立館林高等学校に入学し、商業科三年生として学ぶことになりました。

ここに、

四年4月、早稲田大学文学部に転任、以後館林に転属して、片道二時間半近い通学通勤を続けて十八年余りになる。昨年六月までは、ずっと健康、二合半ほどの酒は毎夜欠かしなかったがなかつたのだが、胆嚢・胆管ガンが見つかるまで肝臓の一部ととも切除、その後、閉居を守つて居る。手術後は通院で、昨年九月以後休職せ、二重壁も無事に戻つて居る。2019年度まではあつた三年生、何とかなるたみうと羨望して居る。これからの読者さん、読者のみなさんに大層だ、(右)に記したよき女子がない教師の人生です。これまで西園などに関連する研究資料、資料も大分集まりましたが、少しも売れない(たぶん)。

長谷川正博

早稲田大学文学部教授
群馬県立館林高等学校教員

平成20年9月1日発行

館高Now

館高健児の熱気を見よ!

平成二十年年度球技大会報告

去る七月十日(木)、十一日(金)の二日間に行われ、今年度の球技大会が実施されました。

「チームスポーツを通してクラスの連帯感を高める」という目的の下で、生徒一人一人がそれぞれチームのため、クラスのために一丸となって取り組むことができました。

種目は①サッカー②ソフトボール③バスケットボール④卓球の四種目で、そのメンバー決めから各クラスとも熱を帯びていました。担任の目から言わせていただくと、メンバーもキャプテンもあつという間に決まったようで、生徒の動きの早さに感動しました。

その後、話は「Tシャツ」作りへと移り、主導権を握る体育委員等の誘導で各クラス色とりどりかつ工夫を凝らしたそれをきっちり作成することができました。こうした一連の流れの中にも、生徒の「前向きに取り組みたい」という姿勢を垣間見ることができました。十日の閉会式では、教頭先生から「けがや熱中症に気をつけて、素晴らしい思い出となるように頑張ってください。」の激励のお言葉をいただき、生徒会長からは「正々堂々戦おう!」という力強い思いが

伝えられました。さらに代表生徒7名の音頭による「やるぞ宣言」で、全校生徒はもとより全職員が一体となることができました。

大会結果は、左のとおりです。
 第1位 3年2組 合計点10点
 第2位 3年5組 合計点13点
 第3位 3年4組 合計点18点
 第4位 2年4組 合計点19点
 第5位 3年6組 合計点20点

この球技大会から学んだことや得たものが、二学期に行われる「体育祭」に受け継がれ、さらに学習面にも効果的に影響するものと確信し、報告いたします。



●定時制だより

四月七日の入学式には11名の新入生を迎え、在校生は四学年合わせて46名です。昼間の仕事の疲れも見せず、落ち着いた学習態度で授業を受け、その成果も上がってきています。職員も3名の異動があり、新しい風が吹き込んでいます。

今年の定時制の目標は、生徒の将来構想を考えた懇切丁寧な学習指導と生活態度の育成、広報(学校新聞)の発行による情報発信と定時制の活性化に置いています。

また外国籍生徒のための日本語教室の開設も準備中です。

定時制は昭和23年に開設され、今年で60年を迎えました。卒業生は1686名です。五月二十六日の開校記念講演会では、館林副市長の金井田好秀(昭和39年卒)から「館林の市政―現状と郷土愛」と題して歴史や観光、有名人、数字に見る館林の変化などDVDを使用して二時間半にわたる講演をいただきました。講演を通じて改めて館林の良さを生徒は実感しています。



熱く市政を語る金井田副市長

たよです。今後の講演会は九月にキャリア教育セミナー、十一月に租税教室を予定しています。広報活動では昨年からは「学校新聞」「定時制の灯」「PTA新聞」「EET A会報」も今年度も引き続き発行し、保護者、雇用主に情報をより多く発信し、活性化につとめていきたいと思えます。今後とも少数のよさを最大限に活かした教育活動を行い、生徒一人ひとりを大切に育てていきたいと考えています。なお、部活動の全国大会には陸上部の二名とバドミントン部一名が出場を決めました。

(教頭 齊藤敏明)

進路状況

今年度の進路決定状況は、四年制大学に190名(83.0%)、短期大学に3名(1.3%)、専門学校に4名(1.7%)、大学校に1名(0.4%)、就職2名(0.8%)という結果でした。また、進学努力継続者は29名(12.7%)、進路決定率は87.3%であり9割に迫る高い結果となりました。

前年度に比べると、進学努力継続者が倍増していますが、このうちの15名の生徒はいくつかの大学に合格しているが、さらに第志望の大学を目指して努力を継続しようという生徒であり現役合格率は昨年同様93%を超えています。

大学別の合格者数をみると、合格が多かった大学は、日本大学39名、東洋大学23名、群馬大学21名、芝浦工業大学18名、明治大学15名、神奈川大学15名などです。今年度は群馬国立大の筑波大学2名、横浜国立大学1名、千葉大学5名などにも合格しています。また私立大学も、明治大学や青山学院大学など、MARCHEクラスの大学に数多く合格しています。

この出来る大学を目指して、生徒が最後まで粘り強く頑張ったのはもちろんのこと、先生方、保護者の皆さんが一致協力して生徒の夢を叶えるために努力した賜物であると感謝しています。

進路先状況

	()内は前年度
国立大学	52 (61)
私立大学	138 (150)
短大	3 (1)
大学校・留学	1 (2)
専門学校	4 (7)
就職	2 (0)
自営	0 (0)
進学努力継続	29 (15)
合計	229 (236)
進路決定率	87.3 (93.3)
大学進学決定率	87.0 (93.4)

国公立大学

筑波大学	2
宇都宮大学	4
群馬大学	21
埼玉大学	5
千葉大学	5
横浜国立大学	1
電気通信大学	1
東京農工大学	1
横浜国立大学	1
金沢大学	2
高崎経済大学	4
など	56名

私立大学

青山学院大学	7
明治大学	15
中央大学	9
法政大学	6
東京理科大学	5
芝浦工業大学	18
日本大学	39
東洋大学	23
駒澤大学	8
専修大学	7
同志社大学	1
など	373名

部活動状況

今年度の県高校総体は総合第13位(得点30位)という結果であった。一昨年は18位、昨年は5年では最高位の9位という結果である。総合入賞まであと二歩という現在、今年度の各部の検討がよりをきり、現状をこ報告したい。

顕著な活躍ぶりのはレスリング部である。総合第2位、個人の入賞種目数でも他を圧倒している。木村政貴は一年生ながら優勝を果たし、3連覇に向けて優勝スタートを切った。今後大いに期待したい。また、サッカークー部、卓球部、バドミントン部、硬式テニス部など、上位入賞、それぞれ僅かであったものの、着実に力をつけており、今後の発展が期待される。

本年度はレスリング部とボート部がインターハイへの切符を獲得した。早稲三郎選手も入賞、地理的にも恵まれた埼玉の地で、館高の名を全国に響かせてほしいと願っている。他にもテニス部、水泳部、陸上競技部が関東大会への出場権を獲得するなど、好成績を収めている。

館高Now

文武両道を掲げる本校生徒にとっても大きな課題は、いかに時間を効率よく使うかといふことである。職員の間も協力を得ながら部活動の時間を確保しているが、他校と比較しても決して練習時間が長いとは言えない。そのような現状に環境の中で最大限の効果を上げるには、「意識の高さ」と「考えの力」、いわゆる質の高さが必要不可欠である。館高生にはその力が十分にあり、他校との差を縮める重要な要素である。そのことを各自が強く認識し、目標に向かって頑張るべきである。

【陸上競技部】

今年度は3年生5名、2年生7名、1年生15名の計27名で活動しており、昨年度と比較すると倍増しました。県高校総体では5000mで決勝進出、3000m SSCで第1位でした。残念ながら関東大会まであと一歩という成績でしたが、総体にヒュークを合わせ、多くの生徒が自己記録を更新できたことは大きな成果でありました。

また群馬県選手権においては小倉康輔が3000m SSCで好成績を挙げ、関東選手権への出場権を獲得することができました。関東：全国に通用する競技者を目標するとともに、人間的に成長できる場となることに重点を置き、伝統ある陸上競技部での活動に部員一人ひとりが取り組んでいきます。今後ともこの指針の視、よろしくお願いたします。

【レスリング部】

今年度は全国中学生大会(三連覇)達成し、日本レスリング協会の全国中学生選抜選手権優勝選手賞を受賞した大型新人が加入し、勢いづいたといえる状況でしたが、3年生2名、2年生3名の総勢6名となつてしまいました。昨年は県内2の部員数を確保し、新人大会・県総体・インターハイ予選と三連覇三冠を達成していましたが、学校対抗戦で勝利を収めるには非常に厳しい状況になつてしまいました。

しかし、個人対抗戦では、部員全員が関東大会の出場権を獲得し、3名の選手が3位以内に入賞することができました。また、インターハイ予選においても2名の選手が優勝し、本戦への出場権を獲得することができました。

今後は伝統的に部員確保のための努力を惜みず、全国で活躍できるチーム選手を輩出していきたく思います。また、確かな伝統を汚すことのないよう、一生懸命に頑張っていきたいと思っております。

【ボート部】

ここにはボート部です。今年度は3年生3名、2年生1名、1年生4名の計8名で活動しています。相変わらず、部員大定に悩んでいますが、生徒は皆元気にボートを漕いでいます。昨年、5年連続にある好成績を残すことができたのは、回りの方々の支援があつてこそその結果であると改めて感謝しております。しかし、今年は頑張っているのですが、なかなか思うような成績を残すことができていません。今後、シーズンも深まってくるので、なお一層の努力をして納期のいくレースをしたいと思っております。

全国で勝てるチームを作ることにももちろんですが、素晴らしい館林高校の先輩方を手本に、ボートを通して、しつかりとした人間形成や仲間を大切に思う優しい心、何事にも最後まで諦めない強い心を養わせたいと思っております。

【水泳部】

ここには水泳部です。今年度は新入生4名を受け入れ、合計17名で活動しています。今季は6月末に関東高校選手権予選会が行われ、総合6位に入賞し、真壁部(1000m・2000mバタフライ)、高橋部(2000m自由形)、新川部、松本部、北島部等の5名が関東大会出場をきめました。関東大会は7月末に茨城県の笠松運動場屋内水泳場で行われます。全員インターハイ出場をめざしてがんばってきたいと思っております。

県内の大会では8月1日に県高校総体、23日には新人戦が予定されています。みん限られた練習環境の中でよく努力しています。今後も応援よろしくお願いたします。

【剣道部】

平成十九年九月十五日(土)に館林三の丸芸術ホールで、本校主催の第56回全国高等学校剣道大会を開催いたしました。全国より三十名といふ近年にない大勢の弁士が集い、成功のうちに終りました。

また本年の八月八日(金)、九日(土)に館

【林市文化会館で、全国高等学校文化祭并編

部門 第54回文部科学大臣杯全国高等学校剣道大会を部門事務局校として運営しました。

今年度は決勝大会をお休みします。来年の第57回大会でも、変わらぬ指導部支援をよろしくお願ひ申し上げます。

【新聞部】

創刊は昭和二十四年ですが、長らく休刊していた時期があり、平成七年に復刊しました。復刊号を号とし、六月発行の新聞で293号を迎えました。「月二回以上の発行」を目標に頑張ってきましたが、現在部員が2年生3名しかおらず、今後の活動に不安を感じています。しかし、新聞委員会の生徒にも手伝ってもらいながら、これからも見やすい紙面を心がけて館高新聞を作っていきます。思いをお願いします。今年度は全国高校総合文化祭が群馬で開催されます。本校新聞部員もその運営委員として、全国から参加する高校生をサポートする予定です。

【新入部員】

今年度も多くの新入部員があり、部員がさらに増加して、現在、3年生十名、2年生十名、1年生十三名の総勢三十三名の所帯となりました。部室で生徒同士との対面を行っているのですが、大変狭いため、活動場所をどこか別の場所に確保することが課題となつていきます。人数は多いのですが、招旗をする生徒ばかりで、回覧を行う生徒が非常に少ないのが、悩みの種となっています。

大会成績で顕著なのは、昨年度に引き続き今年も二年生の菅井選手が、回覧の全国大会に出場できることになったことです。県大会でも昨年度の三位からひとつ順位を上げて、準優勝することができました。それを励みに、全国でも多く勝てるように頑張っていく決意を持っています。

また、今年度は高校総合文化祭が、群馬県開催のため、そちらの方にも出場し、団体戦の主導を務めることになっています。応援よろしくお願ひいたします。

高校総体などの結果報告

【レスリング部】

学校対抗 2位
個人戦 関東大会6名出場

【サッカー部】

ベスト8

【バレーボール部】

ベスト16

【ソフトテニス部】

ベスト16

【山岳部】

総合10位

【軟式野球部】

1回戦

【卓球部】

団体7位

【バスケットボール部】

団体2回戦

【バドミントン部】

団体ベスト8

【個人シングルスダブルス】

ベスト16

【テニス部】

団体2回戦

【個人シングルス】

ベスト8

【ダブルス】

ベスト16

【空手道部】

団体型・組手ベスト16

【陸上競技部】

3000m SSC 8位 関東大会出場
5000m 決勝進出

【剣道部】

ベスト16

【ボート部】

関東大会出場

【水泳部】

総合6位 関東大会5名出場

【硬式野球部】

夏季大会 2回戦

★高校総体男子総合13位

今年の館高同窓会(総親睦会)は11月8日(土)

～誘い合ってお出かけください～

300名以上参加する大同窓会になって今年で10回目になります。同級生同士が旧交を温めるもよし、先輩後輩が励まし合うもよし、元気をもらって頑張ろうもよし、誘い合ってお出かけください。好評だった「同級生は同一席で」「総会の超スリム化」「同窓生はみんな平等」の精神などは継承して開催します。

代表幹事 昭和50年卒業生たち



↑ 昨年の総会で「奮ってご参加下さい」と呼びかける今年の代表幹事たち

日時：平成20年11月8日(土) 午後5時

会場：ジョイハウス (TEL.0276-73-4669)

◎参加券は総会幹事さん(下記)からお求めください。
(参加券は5,000円、事務局にもあります。)

※4時30分から吹奏楽部の生徒による校歌等の演奏がありますので、お早めにお出かけください。

平成20年 総会幹事

46年卒 大沢 孝	47年卒 山岸 雅彦	48年卒 早川 元久	49年卒 津布久高典	50年卒 堀井 隆	51年卒 野村 博久	52年卒 渡藤 和昭	53年卒 神田 静一	54年卒 大嶋 薫	55年卒 今成 勉男	56年卒 白井 佳良	57年卒 増田 秀雄	58年卒 横田 常司	59年卒 大塚 幸雄	60年卒 山田 申	61年卒 中島 大八	62年卒 岡野 上	63年卒 川生 宏	64年卒 山口 勝巳	65年卒 新井 耕一
原 慶浩	井出 康弘	久保田進也	瀧沢 悦登	渡辺 勝次	藤原 直幸	鍋岡 正	須水 理夫	伊藤 昌三	小宮 穂雄	高橋 徹	和田 千明	鎌田 洋行	小林 完夫	塩田 勝	藤橋 博	石井 良雄	西藤 一美	栗原 保男	萩野 次雄
吉水 敏昭	金子 博	黒沢 信幸	中島 清	藤沼 直治	早川 聡正	岩田 徳憲			初谷 克敏			宮内 敦夫	増山 豊臣	長谷川正博	平島 和雄			栗原 保男	増山 芳弘

校内を彩る芸術作品



校風景になりがちな男子校にうるおいをと、校内には〇日芸術家の秀作があちらこちらに展示されている。その一つ、生徒玄関の展示コーナーには、今号〇日給場の廣瀬義之氏より寄贈された「色絵木蓮乃図面取書」がある。朝に夕に生徒の感性を磨く。

46年卒 長澤 勉	47年卒 藤原 彰	48年卒 岩澤 勝也	49年卒 藤原 隆也	50年卒 藤原 隆也	51年卒 藤原 隆也	52年卒 藤原 隆也	53年卒 藤原 隆也	54年卒 藤原 隆也	55年卒 藤原 隆也	56年卒 藤原 隆也	57年卒 藤原 隆也	58年卒 藤原 隆也	59年卒 藤原 隆也	60年卒 藤原 隆也	61年卒 藤原 隆也	62年卒 藤原 隆也	63年卒 藤原 隆也	64年卒 藤原 隆也	65年卒 藤原 隆也
知 貴	石崎 治	岩井 隆幸	岩井 隆幸	岩井 隆幸	岩井 隆幸	岩井 隆幸	岩井 隆幸	岩井 隆幸	岩井 隆幸	岩井 隆幸	岩井 隆幸	岩井 隆幸	岩井 隆幸	岩井 隆幸	岩井 隆幸	岩井 隆幸	岩井 隆幸	岩井 隆幸	岩井 隆幸
初沢 賢幸																			

事務局より

- 総会幹事をご推薦ください。上の総会幹事の欄で、空欄のある学年は補充する方をご推薦いただければ幸いです。よろしくお願いたします。
- 次号の同窓会報を送付希望の方は、会費として千円を、郵便振替でお送り下さい。
- 座番号 0052012125333
- 座名 群馬県立館林高等学校同窓会
- 今年度の事務局員は、
町田、和泉、栗原、桂木です。

編集後記

オリンピックの年、あらためてクーパーンピックの言葉「オリンピックで重要なことは、勝つことではなく、参加することである。人生で大切なことは、成功することではなく、努力することである。」を思い起す。前半の言葉は余りにも有名だが、後半のそれは今に生きる名言と思えよう。

今号の一面特集は「十年目を迎える新同窓会総会」であるが、十年前に「同窓会はみな平等」を改革の基本理念としてスタート。以来今白までその精神は受け継がれて今に生きる。

今回から校章を題字上に載せた。ご意見をいただきたい。

発行 群馬県立館林高等学校同窓会
〒374-0041 群馬県館林市富士原町二丁目一
番〇七六(七)三四三〇七
http://www.edu-c.pref.gunma.jp/gakko/kou/taisekisyu/
kou/taisekisyu/